

○本県農業・農村の現状分析や、食と農の審議会委員からの意見をもとに、これからの農業・農村施策の課題を整理

現状

<内部環境>

- 農業産出額はH22以降H29まで増加傾向だが、H30以降減少(H22:2,123億円→H29:2,263億円→H30:2,120億円→R1:1,979億円)
- 農業経営体数は大幅に減少、(5年間で22%減)
新規就農者数はH29以降伸び悩み(年間300人弱)
- 一方で、農産物販売金額3千万円以上の経営体数は5年間で14%増(889経営体)、農業法人数は13%増(636法人)
- 農村地域では、都市部以上に人口減少や高齢化が進展(高齢化率(2015年):都市部25%、農村地域40%)
- 一方で、多様な主体と連携したため池・農地等の保全活動は拡大傾向

<外部環境>

- 高度で効率的な生産・流通管理を可能とする農業技術・設備の革新(スマート農業)
- 市場法の改正等による農産物流通の多様化の進展
- 消費者ニーズの多様化(ニッチ市場の増大)
- 食の簡便化(中食・加工品市場の拡大)
- 気候変動等に伴う自然災害の激甚化や新規病害虫の発生

コロナによる環境変化・行動変容

- 様々な産業や日常生活におけるオンライン化や、デジタル技術が急速に普及
- 首都圏一極集中から地方分散への動き
- 外国人技能実習生の入国制限等による人材不足
⇒他産業人材の活用や農福連携の拡大
- 外出自粛による飲食・贈答需要品目の需要低迷
⇒巣ごもり需要の高まり
- 域内消費や、利他的、共助による需要の高まり
- 都市・農村の交流や連携が必要と考える人の増加

第1回食と農の審議会(R2.12.17) 委員からの主な意見

- 産出額も大事だが、農業者の所得向上を目指すべき(ブランディングや価値づくりが重要)
- ビジネス経営体だけでなく、家族経営も農業生産や地域を支える担い手である
- 消費者との協働が必要、県民の理解・応援を得るには農産物の安定供給や食の安全・安心に取り組むことが重要
- 農業におけるSDGsの位置づけを整理し、提示すること
- コロナ禍による社会変化と、アフターコロナに残すもの、戻すものを整理すること

課題

- ①県産農産物の価値を向上させる生産・流通体制への転換(多様化するニーズへの対応や新たな需要の創出)
- ②農地集積・集約化・基盤整備の推進とスマート農業の導入による生産性の向上
- ③農業生産を担う多様な経営体や農作業支援者の確保
- ④農村地域における生活環境や多面的機能(防災機能)の保全
- ⑤消費者が農業・農村に触れる機会の創出と協働の仕組みづくり

次期経済産業ビジョン(農業・農村編) 骨子(素案)

次期経済産業ビジョン(農業・農村編) 骨子(素案)

R3.3.29時点

○産業振興と地域振興の2つの視点から、農業・農村の持続可能な発展を目指す

(下線部は審議会委員の意見反映)

- ・農産物や地域の価値づくりを進め、農業者の所得向上や農業に対する県民・消費者の理解促進を図る
- ・SDGsの考え方に基づく農山村づくりにより、豊かで安全・安心な暮らし環境を保全する

基本方向(Ⅰ) 産業振興の視点

理念 世界の健康長寿と幸せに食で貢献~多様な人々が活躍する高度で効率的な次世代農業のイノベーション~

1 マーケティングに基づく価値づくり

- ①消費者、顧客の行動変容や環境変化に対応した新しい商流・物流の構築
 - ・ブランド力向上
 - ・本県の強み、特長を活かす
 - ・デジタル技術やECサイトを活用した県産品の販路拡大
 - ・首都圏市場に続く新たな広域経済圏の構築
- ②成長の原動力としての輸出拡大
 - ・輸出環境整備
 - ・重点品目への注力
 - ・デジタルマーケティングを活用した輸出拡大体制の確立
- ③ニーズに対応した生産・出荷体制(ChaOIプロジェクトなど)
 - ・計画的な生産・出荷体制(契約生産、出荷予測等)
 - ・食の安全・環境配慮への対応(HACCP、GAP認証、脱炭素)
 - ・高品質化(機能性、品種開発等の技術開発・普及)

2 生産・出荷の高度化・効率化

- ①DX・スマート農業普及(AOIプロジェクトなど)
 - ・経営体や地域の状況に合ったスマート農業技術の普及
- ②農地集積・基盤整備
 - ・人・農地プランの推進
 - ・基盤整備プロジェクト(茶、高収益作物(水田)、柑橘)
- ③デジタル技術等を活用した効率化
 - ・集出荷施設の高度化、生産工程管理の普及
- ④リスクを見据えた安定生産・経営の確立
 - ・BCP、収入保険の導入促進
 - ・病害虫・家畜伝染病対策等

3 多様な農業経営体の育成

- ①多様な農業経営者※の育成
 - ・新規就農・参入支援
 - ・経営継承(後継者、第三者)
 - ・女性の参画支援
 - ・専門人材育成(専門職大学)

※効率的かつ安定的な農業経営になっている経営体及び継続的に農地利用を行う中小規模の経営体
- ②農作業支援者の確保
 - ・農業法人への就職支援
 - ・農福連携

基本方向(Ⅱ) 地域振興の視点

理念 豊かで安全・安心な暮らしに環境やコミュニティで貢献 ~環境と調和し人々を惹きつける農山村~

1 魅力ある農村環境の維持

- ①住み続けられる農村地域づくり
 - ・農地・農業用施設の保全
 - ・中山間地域の農業や生活基盤の保全(日本型直接支払、農道・集落道の整備)
 - ・鳥獣被害対策
- ②農業・農村の強靭化
 - ・農村地域の豪雨・耐震対策
 - ・農業水利施設や水田を活用した流域治水対策

2 農村地域を支える新たな活力の創出

- ①地域づくり人材の育成
 - ・移住促進
 - ・地域のリーダー・コーディネーターの育成(専門職大学等)
- ②地域資源の活用と関係人口の創出・拡大
 - ・多様な主体の参画によるコミュニティの強化(企業連携、サポーター制度、クラウドファンディング等)
 - ・観光・交流の推進(グリーンツーリズム、マイクロツーリズム)
 - ・地域資源の保全と活用(世界農業遺産等)
- ③消費者と食・農とのつながりの深化
 - ・地産地消、地域及び農産物の魅力発信(食育、花育、茶の愛飲促進)

農業・農村の持続可能な発展